地域資源調査報告

平成18年度の第1次「寿都町資源調査」に引き続き、今年度、第2次「寿都町資源調査（歴史資源）」及び第3次「資源調査（産業・観光資源）」を行ないましたので以下の通り報告します。

1. 調査概要

第2次調査

第1回目調査 日 時：2007年7月18日（水）
場 所：磯谷、美谷地区の寺社
種前地区の倉庫
市街地区の倉庫群（その1）

第2回目調査 日 時：2007年8月3日（金）
場 所：市街地区の倉庫群（その2）
歌棄、樽岸地区の寺社
歌棄、浜中の倉庫、記念碑

以上、調査メンバー 伊藤 今井

第3次調査

第3回目調査 日 時：2007年11月26,27日（金,土）
場 所：磯谷～政泊までの漁港と磯
磯谷牧場（小野）
浜中の朱太川
小川の「法人の森」「寿都鉄道跡」

以上、調査メンバー 今井、小野

2. 調査結果

調査は、磯谷地区から市街、政泊地区までの寿都町の資源を下記に分類し、現況写真（外観）を撮影した。

a：土蔵、倉庫 b：寺院 c：神社 d：文化財 e：記念碑 f：家屋 g：風景、他 h：産業（漁業） i：産業（農業） j：観光及び交流施設

【磯谷】

- g1：尻別川より望磯谷牧場を尻別川より望む 1
- g2：尻別川（下流 鷲の沢樋門）より磯谷牧場を望む 1
- g3：磯谷牧場より羊蹄山から弁慶岬を望む（5コマ）
- g4：磯谷、島古丹海岸（北側を望む）
- h1：磯谷海岸船着き場
- f1：永井氏宅近所の黒板壁の家
 - ・永井宅土蔵は取壊し済
- c1：海神社

- b 1 : 願翁寺
- b 2 : 最尊寺 (坂の上にあります)
- b 3 : 登順寺
- c 2 : 稻荷神社
 - a 1 : 住吉宅土蔵 (現在は使われていない)
- c 3 : 伊都岐島神社
 - h 2 : 横間漁港
 - g 5 : 横間漁港南の磯

【美谷】

- c 4 : 美谷稲荷神社 (海の中に延びている)
- g 6 : 鮫取間の古い港跡
- g 7 : 稲荷神社よりトバ乾燥場を望む
- b 4 : 新豊寺 (居住はしていない。隣に美谷共同墓地あり。)
- h 3 : 鮫取間漁港その 1
- h 4 : 美谷漁港
- g 8 : 美谷・歌棄の磯

【歌棄】

- a 2 : 種前 鯨倉庫 1 (赤レンガ), 鯨倉庫 2 (こげ茶色レンガ)
- b 5 : 龍昌寺 (曹洞宗)
- b 6 : 西光寺
- g 9 : 有戸海岸から風車を望む (8 基あり, うち 3 基はかすかに見える)
- g 10 : 西光寺のケヤキ (記念保護樹木)
- b 7 : 教立寺 (浄土宗)
- a 15 : 千葉宅土蔵
- a 16 : 酒井宅土蔵
- d 1 : 鯨御殿
- e 1 : 追分記念碑 (鯨御殿の向かい側)
- d 2 : 佐藤家
 - ・ 行成綱記念碑 : 佐藤家の横にあるが, イタドリの密植で不明 (写真なし)
- c 5 : 巖島神社 (お祭り準備中)
- h 5 : 有戸漁港

【湯別、浜中】

- g 11 : 浜中海岸のハマボウフウ
- e 2 : 風評大神
- g 12 : 朱太川 (栄橋) より上流を望む
- g 13 : 朱太川 (栄橋) より下流 (河口) を望む
- g 14 : 朱太川 (湯の浜大橋) より下流を望む
- g 15 : 朱太川 (湯の浜大橋) より上流を望む

- g16：湯の浜大橋より風車を望む
- g17：健康の森（パークゴルフ場）と風車
 - i1：浜中の長芋畑、大根畑
 - i2：湯別のそば畑
 - i3：湯別のホダ木
- j1：湯別の湯、会議場、船頭さんの店、ロッジ

【樽岸】

- b8：法龍寺
- h6：樽岸漁港、後志南部地区 ヒラメ中間育成センター
- g18：法人の森入り口
- g19：寿都鉄道跡の橋（小川地区）
- g20：樽岸海岸から歌棄の山並みと風車を望む
- g21：樽岸海岸の磯

【市街】

- f2：田中電機土蔵は、現在はテレビ「すつつ」の事務所。事務所の下部壁面に面影あり。
 - ・土谷宅土蔵はなし。
- a4：上田屋土蔵（ブロック造り）
- a5：山下水産土蔵（現在はこの前に汚水ポンプ場。）
- a6：奈良時計店土蔵
- a7：崎浦商店土蔵。（片側ブルーのトタン。壁はモルタル）
- a8：山一商店土蔵（大磯町26番地。修理済。交流センター隣）
 - ・清水薬局土蔵，川上水産土蔵はなし。山一商店土蔵（大磯町163番地）なし。
- a9：工藤氏宅（現在は物置として使用）
- a10：畑宅土蔵
- a11：酒本宅土蔵
- a12：堀野宅蔵
- a13：泉谷宅土蔵（田中水産の隣）
- a14：渋谷宅蔵
- c6：寿都神社
- d3：寿都町役場（寿都鉄道跡地，記念碑等はなし）
 - ・「石の観音像」跡地（現在は無）
- b9：法華寺
- b10：善龍寺
- b11：法界寺
- b12：龍洞寺
- b13：願乗寺
- b14：菩提寺
- h7：寿都漁港、漁協建物、及び港

j2：ウイズコム（寿都町総合文化センター）その1，寿都古地図

j3：寿都町交流センター（みなとまーれ）

j4：寿都劇場（現在は取壊され無）

g22：瀧山参事宅庭園

g23：大丸磯灯標を望む（近くに漂流碇）

g24：滝ノ潤海岸から磯谷を望む、弁慶岬を望む

g25：国道より政泊の国有林(ぶな林)を望む

【政泊】

e3：弁慶の像

g26：弁慶岬灯台

g27：弁慶岬

e4：弁慶の土俵跡の碑

h8：政泊漁港

g28：政泊海岸の磯

g29：政泊海岸の磯から弁慶岬灯台を望む

g30：政泊海岸

地域資源とは

地域にあるあらゆる資源を抽出し、その中から地域の再生に向けて、以下の視点で地域の持つ資源を活用することが、住民が自らの智慧で作り出すことが大切となる。

- ・ 地場産業で生活できる地域を作る。
：地場独自の産業振興から豊かさを追求する。
- ・ 自然と共生、持続可能な地域を作る。
：身近な自然の回復と水辺空間を活用する。
- ・ 横並びでない地域を作る。
：地域の持つ資源と環境を活かす。（地域ブランドのすすめ）
- ・ 住民の意思で地域を作る。
：自らランドデザインを描く。

地域資源による地域再生(観光振興)

- ・ 日本が観光立国を推進するに当たって、最も重要な課題は観光客や旅行会社や観光関連企業や名所見物が主役の「従来型の観光」の振興を図るのではなく、地域住民が主役になり、地域住民が誇りを持つことの出来る地域資源を持続可能な形で訪問者(観光客)に提供することによって、地域住民と訪問者がともに感動や幸せを共有できるような「新しい観光の創造」を行なうことである。
- ・ 持続可能な観光の創造を図るためには、いくつかの条件が満たされることが必要である。そのうちで、最も重要な条件は、地域社会の主導による「内発的観光開発」を推進することである。内発的観光開発とは、地域社会の人々や集団が固有の自然環境や文化的遺産を持続的に活用することによって、地域主導による自律的な観光のあり方を創出する営みを意味している。
- ・ その最も重要な前提条件は「自律性」である。「自律」とは、「自分で自分の行ないを規制する」「外部からの力にしばられないで、自分の立てた規範に従って行動する」「ある社会制度が他からの制約を受けずに独立した運営を行なっていく」などが意味されている。すなわち、内的観光開発は「自律性」を前提にしているが、それはかならずしも外部の諸要素を排除するものではなく、一つの地域社会が潜在的に有している各種の可能性が発現される契機はほとんどの場合に外部の諸要素との出会いに基づいている。その意味では、決して外部性を排除しては成り立つものでなく、むしろ、地域社会の側が自らの意志や判断で外部の諸要素を取り込んだり、それらとの連携を図ることによって、よりよい成果を生み出す試みとみなすことである。
- ・ 地域社会の「自律性」を基盤にした内発的観光開発は、地域社会にとって、外部の企業やトラベル・エージェンツによる規制や条件付けが少ないという意味で「自律的観光(autonomous tourism)」の創出につながる試みとみなすことができる。
- ・ 名所見物より学びや芸術や癒しに力点を多く参加体験型観光を志向し、1箇所滞在を重視する動きを見せている。
- ・ 各地域で地域住民を中心に、各種の地域資源(自然資源、文化資源、人的資源など)を持続可能な形で活用しながら、自律的に観光振興を図る試みが行なわれている。
- ・ そのために民産官学の連携・協働が不可欠であり、そのような連携・協働の要となってコーディネーターとしての役割を果たせる人材の育成が急務である。